

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ル、爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
七 勳章其ノ他名譽ノ章票

八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセザルモノ

第十七條 左ニ掲グル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラル、コトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒

ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滞納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滞納者若ハ前條ニ掲タル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員（市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員）若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長（市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區戸長）ニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滞納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

徵

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收稅官吏ニ對シテ滞納處分費及稅金額ヲ限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滞納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價額ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ督促手数料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、通信費及訴訟費用トス

滞納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之

稅

ヲ徵收ス

納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金

ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ

先ツ處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテ債主ニ

交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ但第三條ニ掲ケタル

質入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滯納處分費ヲ徵シ次

ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ仍

殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ

以テ滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就

キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達

スルモノトス

名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住

居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルト

キハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分ノ終了ヲ以テ終

ル滯納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滯納處分終了スルモ滯納處分費及税金ノ完納ニ

至ラサルトキハ納期限後一箇年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滯納

處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿

脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁

錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ

毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ

各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ

適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法同年法律第三十二

號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨ

リ廢止ス

(解)

一 明治三十年六月勅令第二二一號國稅徵收法施行規則同年同月

大藏省令第一〇號同施行細則同年七月大藏省訓令第四〇號國

稅徵收事務取扱方同卅一年二月同省訓令第一一號國稅徵收事

務取扱上諸帳簿及報告書調製方同三十年六月大藏省訓令第三

九號市制町村制未施行地ノ國稅徵收事務取扱方正文ハ之ヲ畧

シ之レニ換フルニ解說ヲ以テス明治卅三年四月四日同卅年大

藏省令第一〇號同訓令四〇號同卅一年同訓令一一號同卅年同

訓令三九號中改正

一 地租徵收方(明治二十七年十一月富山縣伺全十一月二十六日

大藏省指令)地租改正又ハ地押調査ノ錯誤等ヨリ生シタル誤

謬(假令ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ其他同一科目中山林ヲ原野

ニ又同一地目ノ丈量誤謬ノ類共)ヲ發見シ之カ訂正ニ依ルモ

ノ並ニ地目變換違犯ニシテ溯リ修正ニ係ルモノ、地租ハ(前

段中畧)各地租増減差額ニ依リ追徵拂戻ヲ爲スヘキヤ相伺候

後段見込通

一 徵稅令書及徵稅傳令書發付ニ際シ町村長及助役同時ニ町村制

第九條ニ該當シ其職務ヲ解カレタルトキハ町村制第六十一條

ニ準據シ取扱フモノトス

一 町村長滯納報告ヲ爲サ、ルトキハ收入官吏ハ其町村役場ノ帳

簿ニ就キ一人別ノ取調ヲ爲シ之レニ依リ處分スルコトヲ得

文武官ノ恩給金及扶助料ハ租稅滯納ニ因リ差押ヲ爲スコトヲ

得ズ

- 一 納税人他ノ負債ノ爲メ強制執行ヲ受ケタル場合ニハ税金ノ回付方ヲ裁判所ニ要求シ尙ホ其回付金額ニ不足アリタルトキハ納期ニ至リテ徵稅令書ヲ發付シ徵收ノ手續ヲ爲スモノトス
- 一 徵稅令書發付ニ際シ納稅者商事會社ナルトキハ必シモ其代表者名義ヲ記載スルヲ要セス社名ヲ以テスルモ差支ナキモノトス
- 一 滯納處分上ニ要セシ用紙即チ差押調書公賣揭示等ニ要セシモノ滯納者ヨリ代價ヲ徵收スヘキモノニ非ラズ
- 一 國稅ノ納期日大祭祝日又ハ日曜日ニ相當スルモ法定ノ期日ヲ變更スルコトヲ得ス
- 一 滯納者督促狀受領前ニ於テ税金ヲ納付シタルトキト雖已ニ督促狀發送後ナルトキハ尙督促手数料ハ徵收スヘキモノナリ
- 一 滯納者他管下ヘ移住シ遺留ノ財産ナク且ツ公簿上明瞭ナルモノヲ除クノ外ノ財産ニ對シテハ所有ノ財産ヲ認知スル難キ場合ニ於テハ三十年大藏省訓令第四十號第六條ニ依リ差押財産ヲ指定スル能ハサレバ徵收法施行規則第十九條ノ引繼ヲ爲ス

- 一 得サルカ如キ觀アルモ財産アリト推定シタルキニ於テハ滯納處分ノ引繼ヲ爲シ得ルモノナリ
- 一 滯納者外國ヘ渡航シタル者ト雖モ督促狀ヲ本人ヘ送達シ尙ホ納稅セサルモノ遺留財産ナキトキハ徵收法第十二條ニ依リ處分ノ結了ヲ爲スベキナリ
- 一 滯納者其處分費ノミ任意ニ納付ヲ爲サ、ルトキハ訴求ヲ爲シ得ヘキモノナリ
- 一 徵收法第二十八條第二項ニ依リ債主ニ交付スル負債金額ノ利率計算方ハ辨濟期限ノ前後トモ約定利率ニ依ルヘキハ勿論ナルモ利足制限法ニ超過スルコトヲ得ス
- 一 貨幣法第七條補助貨幣受授制限ハ租稅其ノ他公納ニ適用シ得サルモノナリ
- 一 納税人其所在不分明ナルトキハ公示ノ手續ヲ爲シ而シテ納稅セサルトキハ直ニ滯納處分ヲナスコトヲ得
- 一 督促令狀ノ受取ヲ拒ミタルトキハ送達書ニ其旨記入スルヲ以テ送達ノ效力アリ

- 一 正當ノ手續ヲ以テ發付シタル徵稅令書又ハ傳令書ハ納稅者受領ヲ拒ムト否トニ係ハラズ其效力アリトス
- 一 徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ納稅人ニ交付前紛失ノ事實發見シタルトキハ納期前後ニ拘ハラズ更ニ期日ヲ定メ發送ノ手續ヲ爲スヘキモノトス
- 一 徵收猶豫ヲ許可シタル税金ハ猶豫期限前廢業解散等ヲ爲シタルトモ渾テ徵收猶豫期限ニ至ルニ非サレバ徵收ノ手續ヲ爲スコトヲ得ズ
- 一 同居家族ノ所得ヲ戶主ノ名義ヲ以テ届出ヲ爲シ滯納シタルトキハ同居家族ノ財産ヲ差押ヘ得ヘキハ勿論ナリ
- 一 登記ヲ經サル公証人ノ作製シタル証書ハ徵收法第三條ノ債權ヲ證明スル效力ナシ
- 一 公正証書トハ舊公証又ハ登記謄本等ヲ指稱ス
- 一 滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ税金處分費ノ完納ヲ申立テ通貨ヲ提供シタルトキハ差押ノ手續ヲ爲サズ領收証ヲ交付スヘキモノナリ領收証ハ收入官吏ノ發スル規定ノ領收証ニ限ル此

ノ場合ニ於テハ收入官吏ハ豫メ差押官吏ニ領收証用紙ノ交付ヲ爲シ置クモ差支ナカラシ

●大藏省訓令第三一號 (明治三十二年四月)

稅務管理局

租稅調定及月割賦課免除額算定方自今左ノ通心得ヘシ

- 一 租稅月割免除額ヲ算出スルニハ全年ノ稅額ニ免除スヘキ月數ヲ乘シ之ヲ十二分スルモノトス
- 二 租稅月割賦課額ヲ算出スルニハ全年ノ稅額ニ賦課スヘキ月數ヲ乘シ之ヲ十二分スルモノトス
- 三 月割ヲ以テ徵收スヘキ稅額ハ各法定納期ニ平分シ調定スルモノトス
- 四 租稅各納期分配上厘位未滿ノ端數ニシテ五毛以上ナルトキハ之ヲ壹厘ニ切上ケ五毛未滿ナルトキハ之ヲ切捨終期ニ至リ總額ヨリ既納額ヲ控除シ其殘數ヲ調定スルモノトス

●大政官達第三六三號 (明治五年十一月)

貨幣計算出納例則摘錄

新貨ト舊貨トノ價格比較ハ前ニ御頒布ノ新貨條例ニ照準シ且歲入歲費等出納ノ現額厘位ニ止メ四捨五入タルヘシ(四捨五入ノ法算迄ハコレヲ捨テ五毛以上ハ割上ケ壹厘ニ加フルヲ云以下捨入例之ニ做ヘシ)但シ平均相場等ノ如キ其物品ニ乘シ代價多クノ差數ヲ生スルノ數及ヒ其他計算上ニハ毛絲迄ヲ用フルモ妨ケナシ捨入前ニ同シ

●勅令第一九五號 (明治三十年六月)

左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ

- 一 第三種ニ係ル所得稅
- 二 營業稅
- 三 自家用醬油稅
- 四 賣藥營業稅

●大藏省訓令第六五號 (三十年十月)

稅務管理局

納稅人稅金ノ分納ヲ爲サントシ又ハ市町村ニ納付スヘキ國稅ニシテ納期限ヲ過キ市町村ヨリ滯納報告以後督促狀發付以前ニ於テ該稅金ヲ上納セントスルモノアルトキハ國稅徵收法施行細則第六條第二項ニ準シ稅金ニ納付書ヲ添付シ金庫又ハ收入官吏ニ納付セシムヘシ

○旅費

●勅令第三三三號 (明治三十年九月)

內國旅費規則

第一條 內國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ之ヲ支給ス

第二條 內國旅費ハ分テ四等トシ別表定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 瀛車旅行ニハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第四條 官用ノ船舶ニ旅行シ官ヨリ賄ヲ爲サ、ルトキハ食卓料ヲ支給ス
官用ノ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ本令ノ瀛車賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第五條 旅行ノ性質又ハ地方ノ情況ニヨリ定額ノ瀛車賃、船賃、車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得
強雨、積雪又ハ道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニ支辨シ難キ

場合ハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第六條 瀛車賃、船賃、車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿ノ端數路程ハ切捨トス

第七條 年度若ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ瀛車旅行若ハ水路旅行ニシテ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シテ計算ス

第八條 陸路六里未滿瀛車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス

第九條 在勤廳所在地ノ市區町村内ヲ巡回シ遠距離ニ涉ルトキハ一日五拾錢以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第十條 赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ瀛車賃、船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ支給ス

第十一條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス

第十二條 旅行中廢官、退官、非職、退職若ハ死亡ノモノニハ前官

若ハ本官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退官ノモノハ此ノ限ニアラス

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰、水路旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス但數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第十四條 測量、土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡回スル官吏又ハ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シテ各省大臣ハ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ定メ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 各省大臣ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十六條 事務引繼、殘務取調等ノ爲メ廢官若ハ退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十八條 陸海軍武官、文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣、大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ別表ニ準シ主任大臣、大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

第二十條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣内ノ旅行ニ限り旅費定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ニ協議シ定額ノ旅費ニ對シ必要ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣在勤滿二年以上ニシテ廢官、諭旨退官若ハ非職トナリ三十日以内ニ同地出發歸郷スルモノニハ前官若ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ第十三條ノ例ニ據ル

臺灣在勤中死亡ノ者アルトキハ本條ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス(第二十二條見之)

(別表) 旅費額

等	親任官	勅任官	奏任官	判任官
汽車 一哩 二付	七錢	六錢	五錢	四錢
船賃 一海里 二付	七錢	六錢	五錢	四錢
車馬 一里 二付	參拾五錢	參拾錢	貳拾錢	拾五錢
宿泊 一夜 二付	參圓	貳圓	壹圓 五拾錢	壹圓
日當 一日 二付	貳圓 五拾錢	壹圓 五拾錢	壹圓	五拾錢
食卓 一日 二付	壹圓 七拾錢	壹圓 五拾錢	壹圓 貳拾錢	九拾錢

●大藏省訓令第二號 (明治三十二年二月)

稅務管理局

明治三十一年三月當省訓令第二十號内國稅徵收費支辨旅費支給方左ノ通改正ス

一 普通旅行ハ内國旅費規則及明治三十年九月當省達第二〇一二號ノ支給額ニ據ルヘシ (明治卅二年九月十一日ヨリ施行)

等級	汽車賃		船賃		車馬賃		宿泊料		日常	
	一哩	一海里	一里	一夜	一日					
第一等 稅務官吏局長	五錢	五錢	貳拾錢	壹圓	五拾錢	壹圓				
第二等 司稅官	五錢	五錢	拾五錢	壹圓	貳拾錢	八拾錢				
第三等 稅務聯披手	四錢	四錢	拾參錢	八拾錢	四拾錢					
第四等 雇員	參錢	參錢	拾錢	六拾錢	參拾錢					

二 土地検査、間稅検査ノ爲メ稅務署所管内ノ巡廻旅費ハ左ノ日額以內ニ於テ適宜支給額ヲ定メ其ノ支給額及施行期日ヲ届出ヘシ但交通至難其他特別ノ事情アル地方ニ於テハ認可ヲ經テ壹圓貳拾錢以內ノ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

土地検査
間稅検査

日額
全 九拾錢以內
七拾錢以內

土地検査補助雇員

全 七拾錢以內

三 在勤廳所在地内ノ巡廻ニハ旅費ヲ支給セス

在勤廳所在地ニ接續スル町村若ハ其ノ一部ニシテ在勤廳所在地ト別ニ区分ヲ要セサルモノハ在勤廳所在地ニ準シ旅費ヲ支給セサルコトヲ得但此場合ニ於テハ稅務管理局長ニ於テ其區域及旅行期日ヲ定メ届出ヘシ

四 管内旅費ノ支給定額ヲ減少セントスルトキ若ハ別ニ日額旅費ヲ設ケントスルトキハ稅務管理局長ニ於テ適宜支給額ヲ定メ其ノ支給額及施行期日ヲ届出ヘシ

五 一晝夜中日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ト其他ノ旅行ト跨リタルトキハ日額旅費ニ關スル規定ヲ適用セス
普通旅費ヲ支給スヘキ旅行又ハ日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ニシテ一晝夜中數種ノ用務ニ跨リタルトキハ其主タル用務ニ依リ普通旅費又ハ日額旅費ヲ支給スヘシ但シ赴任施行ニハ之ヲ適用セス

●勅令第一二二號摘錄 (明治二十二年十一月)

第一條 内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積リ行程及

日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

●布告第一二〇號 (明治五年四月)

今般海軍省ニ於テ別紙ノ通相定候條其旨可相心得尤海里ハ普通陸里

ト不混様可致事

一海里ハ一度六十分一ヲ以テ一里ト定ム即陸里十六町九分七厘五毛

ナリ

一尋ハ曲尺六尺ヲ以テ一尋ト定ム但測量圖海底ノ淺深ハ子潮ノ時間

尋數ヲ以テ定ムルモノトス

一經度ハ英國「グレートンウーチ」ヲ以テ暫ク初度トス但我國ニ在テハ

東京海軍省標竿ヲ以テ東經一百三十九度四十五分二十五秒零五ト

定ム

珍寸 稅法彙纂 終

明治三十三年六月十一日印刷
全年月十三日發行

(定價)(金貳拾)(五錢)

著作兼發行者 長 者 五

京都府山城國久世郡宇治町字宇治
第四百二十五番戶平民

京都市上京區今出川通烏丸東入ル
玄武町十五番戶

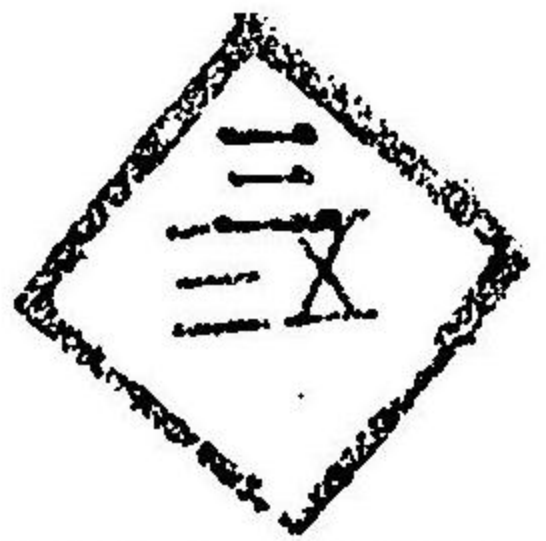
印刷者 高橋茂太郎

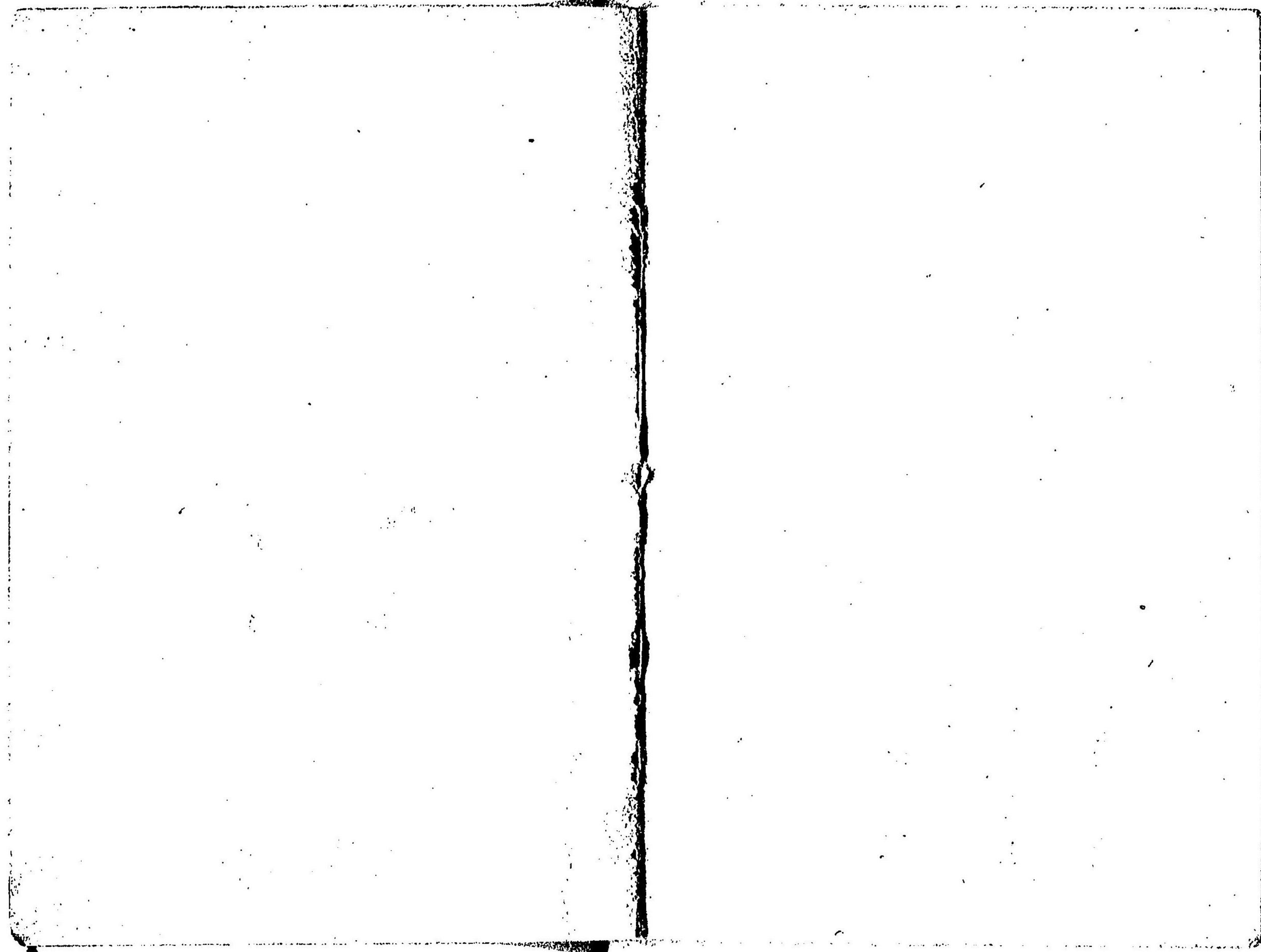
京都市三條通東洞院東入ル
墨華院前ノ町十七番戶

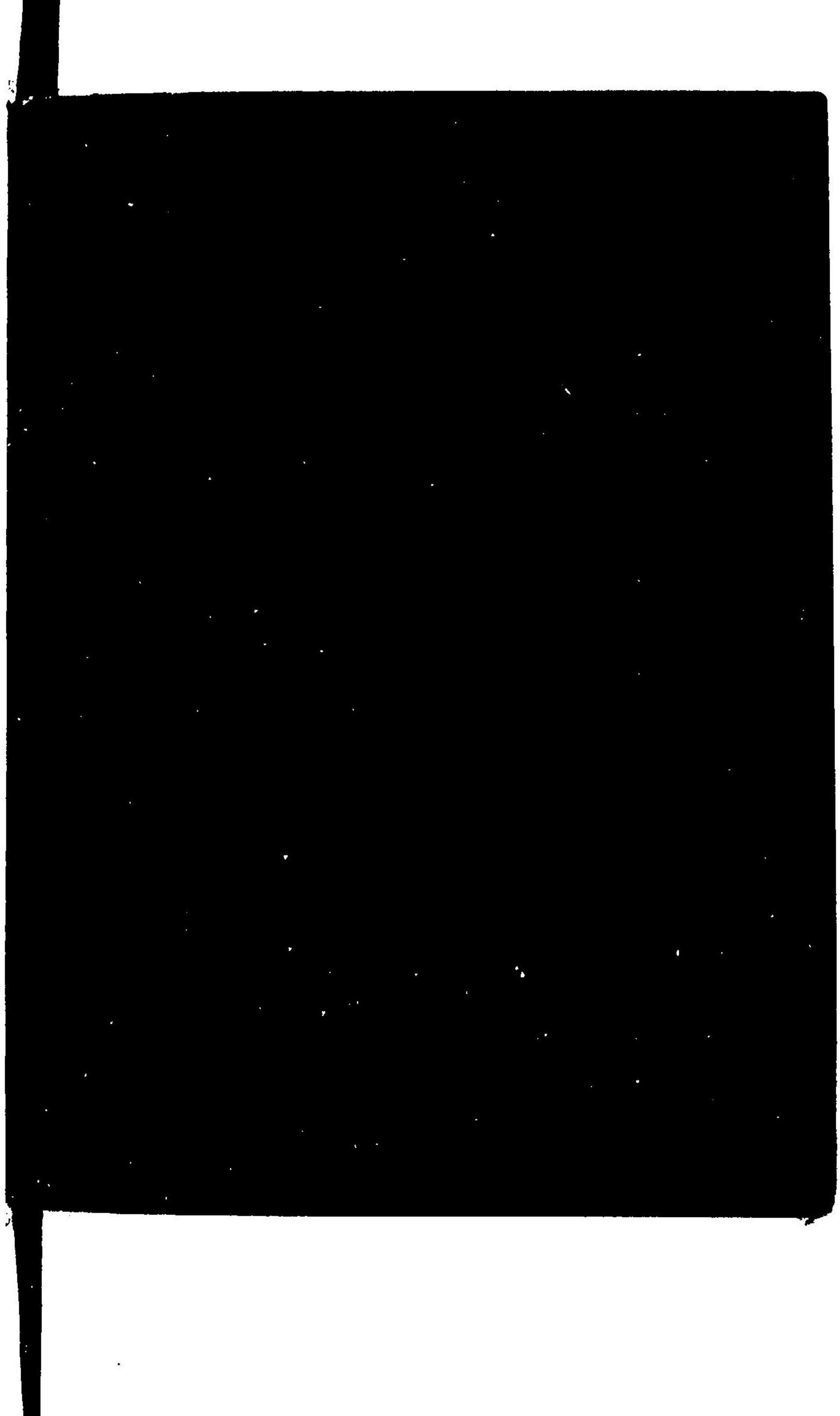
印刷所 合資商報會社

京都市佛光寺通烏丸東入ル

發賣所 書林東枝律書房







特71

793

301376-001-6

特71-793

寸珍税法彙纂

長者五三

M33.6

BDE-0001

